

# 岐路に立つブラジル

## —独立 200 年と大統領選挙を迎える 2022 年を展望する—

「人間いつかは死ぬ」「ウィルスはいつか消える」—コロナ感染の危機を軽視したブラジル大統領の発言が日本を含め海外メディアでも有名になりました。2022 年 10 月、4 年に一度の大統領選挙で再選を目指す現職ボルソナロ大統領。本番の選挙を一年前に控え、出馬の可能性が高いとされる労働者党 (PT) ルーラ元大統領に、大統領選の世論調査での支持率でリードされています。もうすぐ独立から 200 年を迎えるブラジル。感染者数で世界第 3 位、死者数では世界第 2 位というコロナ禍の中、それ以前から抱えていた様々な課題にいかに取り組みのか、ブラジルはまさに今岐路に立たされています。

本講座では、4 人のブラジル地域研究者が政治、経済、社会、国際関係を切り口にコロナ禍にあるブラジルを読み解いていきます。最終回 (2022 年 1 月 12 日) には皆さんからいただいた質問やコメントをもとに、独立 200 年、そして大統領選挙を迎える 2022 年のブラジルについて、登壇者 4 人それぞれの観点から展望します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

### 第 1 回 2021 年 12 月 15 日 (水)

#### 1. ブラジルにおける政治的分極化と「消えゆく民主主義」の克服 / 舩方周一郎 (東京外国語大学世界言語社会教育センター講師)

近年のブラジル政治は、分極化という現象を捉えるうえで多様な問題を提起しています。本講義では、政治的分極化の起源から現在までの軌跡を辿り、ブラジルにおいて分断が生まれる原因と民主主義の行方を検討します。

#### 2. ブラジル版「三方よし」への試み—ブラジルのスタートアップとイノベーション— / 竹下幸治郎 (拓殖大学国際学部准教授)

人、経済、技術の 3 要素を満たす「良いシステム」。これをベースにしたビジネスモデルの社会実装がブラジルで進んでいます。ブラジル版イノベーションの特徴ならびに日・ブラジル企業間の新たな共創の形を考えます。

### 第 2 回 2021 年 12 月 22 日 (水)

#### 1. 「生きる」保障を政治に求める—ブラジルの市民社会の動きから—

／田村梨花 (上智大学外国語学部教授・イベロアメリカ研究所所員)

コロナ禍の社会的影響の指標である感染者数、死者数といった数字には、無数の人々の人生が繋がっています。「これ以上、大切な人を奪われたくない」と、生きる権利が守られる社会を求めて行動するブラジルの市民社会の姿を紹介します。

#### 2. ブラジルの現実主義的な中庸外交の方程式 / 子安昭子 (上智大学外国語学部教授・イベロアメリカ研究所所員)

コロナ対策を巡る大統領の言動やアマゾン火災などブラジルのニュースは今ネガティブなものが多くなっています。失われた信頼の回復を目指し、変化する国際関係の中、自らの立ち位置を模索するブラジル外交の動きを追いかけてみます。

### 第 3 回 2022 年 1 月 12 日 (水)

#### ミニシンポジウム

2 回の講義と聴衆の皆さんからの質問やコメントを踏まえ、3 人のパネリストが議論をします。

《パネリスト》田村梨花、竹下幸治郎、舩方周一郎

《コメンテーター》谷洋之 (上智大学外国語学部教授、イベロアメリカ研究所所長)

《司会・モデレーター》子安昭子

時間： 各回とも 17:20~19:00

開催方法： Zoom ミーティングによるオンライン開催

使用言語： 日本語

要事前申込み： 一括のお申し込みはできません。1 回ごとに各 URL または右 QR コードからお申し込みください。

第 1 回 <https://eipro.jp/sophia/events/view/1B20211215> (締切：12 月 13 日 23 時)

第 2 回 <https://eipro.jp/sophia/events/view/1B20211222> (締切：12 月 20 日 23 時)

第 3 回 <https://eipro.jp/sophia/events/view/1B20220112> (締切：1 月 10 日 23 時)

(各回の前日にお申込みいただいた方々にアクセスに必要な情報をお知らせいたします)

